

## 米国 残高の減少基調は変わらず (09年8月消費者信用残高)

発表日：2009年10月8日(木)

～雇用環境の悪化により当面減少基調が続こう～

第一生命経済研究所 経済調査部

近江澤 猛(おおみさわ たけし)

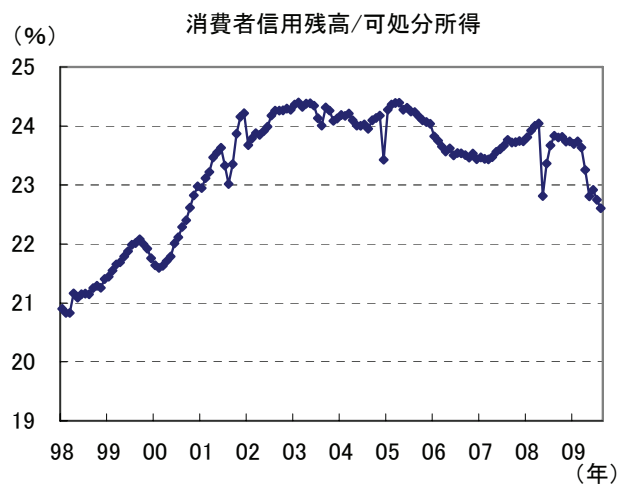
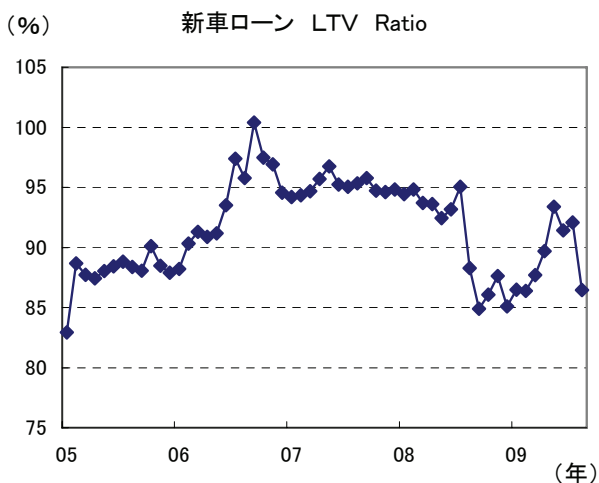
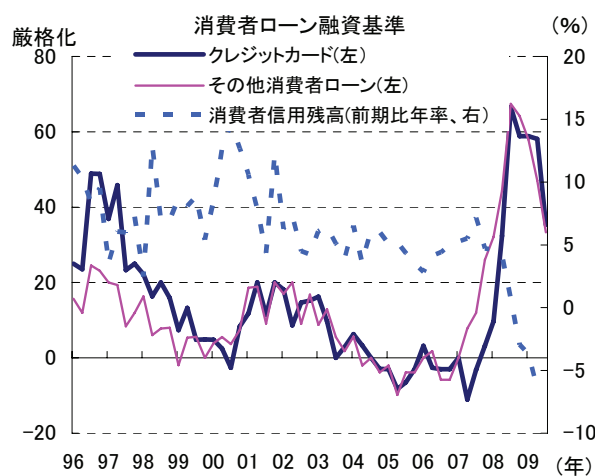
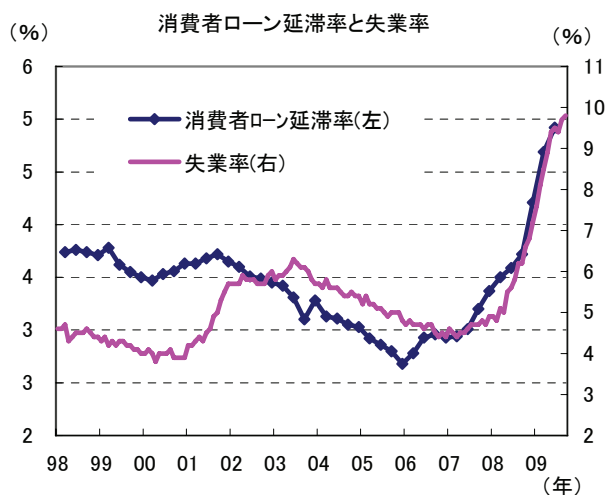
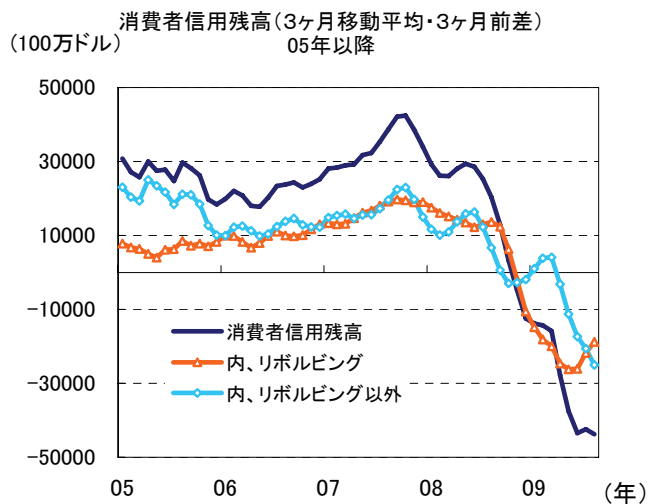
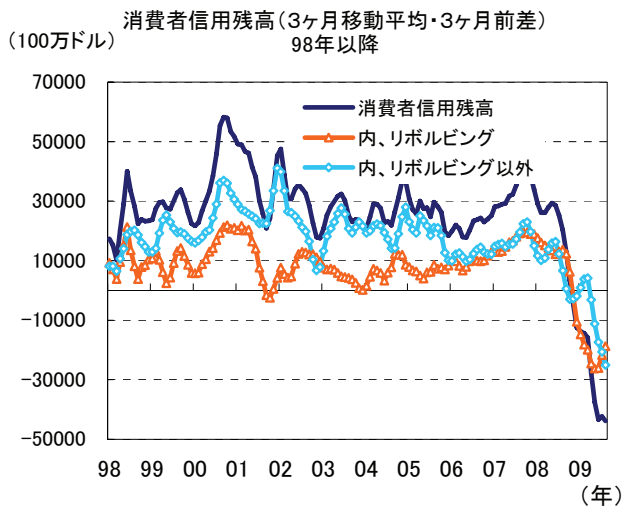
03-5221-4526

- 09年8月の消費者信用残高(季節調整済)は2兆4627億ドル、前月差▲120億ドル(前月比年率▲5.8%)と、市場予想の同▲100億ドルを上回る減少となった。前月比での減少は7ヵ月連続で、直近12ヵ月の内、10ヵ月で減少している。本統計は月次での変動が大きいことから3ヵ月移動平均・3ヵ月前差で均してみると▲438億ドルと、7月▲424億ドルから減少幅は拡大、自動車購入支援策による自動車ローンの一時的な押上げ要因を差し引くと、全体の減少ペースはさらに加速していると思われる。雇用環境の悪化による消費者ローン延滞率の上昇によって、消費者ローンの融資基準も依然として厳しい状況が続いていることに加え、家計はバランスシート調整を続けていることから、消費者信用残高は減少基調が続いている。
- 内訳はリボルビング(クレジットカード等)が前月差▲99億ドル(前月比年率▲13.1%)と前月同▲24億ドル(同▲3.1%)から減少幅が拡大した。リボルビングの減少は08年10月から11ヵ月連続で、減少ペースはやや減速してきているが、リーマンショック以降の減少基調に変わりはない。リボルビング以外(自動車ローン、モービルホームローン、教育ローン等)は、自動車買い替え促進策の影響で自動車ローンが押上げられたとみられ、同▲21億ドル(同▲1.6%)と前月同▲166億ドル(同▲12.6%)から大きく減少幅が改善した。
- 消費者信用残高の可処分所得(年率)に対する比率は22.60%と低下が続き、家計のバランスシート調整が続いている様子が確認できる。
- 先行きの消費者信用残高だが、雇用環境の悪化により、消費者ローンの延滞率も引き続き上昇が見込まれる状況で、金融機関の貸出態度も緩和し難い状況が続くと見られる。さらに、家計も資産価値の減少に伴いバランスシートの調整を続けるとみられることから、消費者信用残高は当面減少基調が続こう。

	消費者信用残高(10億ドル)			リボルビング(10億ドル)		リボルビング以外(10億ドル)	
		前月差	前月比年率(%)		前月差		前月差
08/09	2578.3	2.2	1.0	975.2	0.1	1603.2	2.1
08/10	2575.0	▲3.4	▲1.6	970.8	▲4.3	1604.1	0.9
08/11	2564.5	▲10.5	▲4.9	964.0	▲6.9	1600.6	▲3.6
08/12	2559.1	▲5.4	▲2.5	957.3	▲6.6	1601.8	1.2
09/01	2564.4	5.3	2.5	955.4	▲1.9	1609.0	7.2
09/02	2551.4	▲13.0	▲6.1	942.7	▲12.7	1608.7	▲0.3
09/03	2535.3	▲16.1	▲7.6	934.3	▲8.4	1601.0	▲7.6
09/04	2518.0	▲17.3	▲8.2	925.9	▲8.3	1592.0	▲9.0
09/05	2509.2	▲8.8	▲4.2	916.6	▲9.3	1592.6	0.5
09/06	2493.7	▲15.5	▲7.4	911.7	▲4.9	1582.0	▲10.6
09/07	2474.7	▲19.0	▲9.1	909.3	▲2.4	1565.4	▲16.6
09/08	2462.7	▲12.0	▲5.8	899.4	▲9.9	1563.3	▲2.1

(出所) FRB(連邦準備制度理事会)

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。



(出所)FRB(連邦準備制度理事会)、米労働省